

令和5年9月20日

海事局外航課

**ASEAN 水路測量ワークショップの開催について**

～マラッカ・シンガポール海峡の海図更新～

- 平成17年以降、我が国の協力によって作成が進められてきたマラッカ・シンガポール海峡の電子海図が本年7月に新たに更新・刊行されたことを受け、去る9月13日にインドネシア・ジャカルタにおいて、ASEAN 水路測量ワークショップが開催されました。我が国を始め、同海峡の沿岸3カ国（インドネシア、マレーシア、シンガポール）の当局者等から本事業の経緯、成果等に係るプレゼンテーションが行われました。
- 同海峡は、我が国の輸入原油の9割が通過する最も重要なシーレーンの一つである一方、浅瀬等が点在する狭い海峡に多数の船舶が通航する海上交通の難所であるため、新たに精密な電子海図が更新・刊行されたことにより、船舶航行の安全性と海上貿易の安定性が向上することが期待されます。

- 開催日：令和5年9月13日（水）
- 場所：「シャングリ・ラ ホテル」 インドネシア・ジャカルタ
- 出席者：
  - ・日 本：国土交通省海事局 宮武次長  
ASEAN 日本政府代表部 紀谷大使  
公益財団法人マラッカ海峡協議会 春成理事長
  - ・インドネシア：ノフィー運輸省次官  
アントニー運輸省海運総局局長代理
  - ・マレーシア：アルムガン海事局次長
  - ・シンガポール：セガール海事港湾庁副長官 ほか
- マラッカ・シンガポール海峡の海図更新の概要（別紙参照）

## 【ASEAN 水路測量ワークショップ】



連絡先：国土交通省海事局外航課

03-5253-8111（代表） 03-5253-8618（直通）

羽村（内線 43-325）、中村（直）（内線 43-323）

## マラッカ・シンガポール海峡の海図更新の概要

- マラッカ・シンガポール海峡は、アジアと欧州・中東をつなぐ重要な海上輸送路であり、我が国輸入原油の9割が通航する国際海峡です。狭い海峡を多数の船舶が通航する難所であることから、我が国による水路測量・航路標識整備等の協力により分離通航帯が設けられ、船舶の安全な航行に貢献しています。
  - 同海峡の海図は、1996年～1998年にJICA（国際協力機構）と沿岸3カ国（インドネシア、マレーシア、シンガポール）との共同水路測量により作成されたものの、その後の複雑な潮流による海底地形の変化で浅瀬等の危険箇所が確認されたことから再度測量を実施することとなり、浅瀬等があり、緊急に測量を行う必要がある5海域についてはフェーズ1、フェーズ1以外の海域で30m以浅の海域（全分離通行帯の約1/3に相当）についてはフェーズ2として位置づけられました。
  - フェーズ1（2015～2016年）については、日本の民間団体からの資金・技術協力及び沿岸国の自己財源・現物提供により、また、フェーズ2（2017～2020年（新型コロナウイルス感染拡大のため中断を余儀なくされ2023年末まで延期））については、「日・ASEAN統合基金」（JAIF: Japan-ASEAN Integration Fund※）を活用して、沿岸3カ国と日本が共同実施しました。日本側は、公益財団法人マラッカ海峡協議会が実施機関として事業の進捗・資金管理を行うとともに、日本の民間事業者が測量を行いました。
- ※JAIF: ASEANの統合を支援するため、2005年の日・ASEAN首脳会議において小泉首相（当時）が表明し、2006年に設立した基金。2013年に安倍首相が総額1億ドルの「JAIF2.0」を追加拠出する旨を表明した。「JAIF2.0」は、(ア) 海洋協力、(イ) 防災協力、(ウ) テロ・サイバー対策、(エ) ASEAN連結性強化の4つを柱としている。
- 今回の事業では、過去の測量で用いたシングルビームに代わりマルチビーム方式（下図参照）を用いることにより精度を向上させた大規模な共同水路測量調査を実施したことにより、同海峡の電子海図がより精密に更新・刊行され、同海峡を通航する船舶の安全が一層確保されることになり、中東からの原油輸入、欧州等との海上貿易の安定に貢献することになりました。

水路測量対象海域

## ○ フェーズ1



緊急に水路測量を行う  
必要がある5海域

## ○ フェーズ2



左記5海域以外の  
水深30m以浅海域



マルチビーム方式による水路測量イメージ

